

平成24（2012）年度  
熊本大学大学院法曹養成研究科

第2期募集（小論文試験問題）

試験時間 120分

頁・・・ 1～6

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
2. 試験開始後ただちに、問題用紙（この表紙を含めて7枚）、解答用紙（6枚）、下書き用紙（5枚）が、揃っていることを確認してください。
3. 解答用紙のすべて（6枚）に受験番号を記入してください。なお、氏名は記入しないでください。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入してください。解答用紙のホッチキスは、外さないでください。
5. 問題の内容に関する質問には一切応じません。
6. 配付された解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
7. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰ってください。

問題 1 および問題 2 の課題文を読み、それぞれの設問に解答しなさい。なお、この試験は、論理的思考能力、表現力などを評価するためのものであり、法的知識の有無を問うものではありません。

#### 問題 1

##### 【課題文 1】

(この部分につきましては、著作権の問題により、公開できません。)

(出典：フィッシャー&ユーリー／金山信夫 浅井和子訳『ハーバード流交渉術』(知的生きかた文庫(三笠書房)・1990年) 18～32頁。原文縦書き。なお、漢数字を算用数字に変換し、文および表の一部を省略している。)

##### 【課題文 2】

(この部分につきましては、著作権の問題により、公開できません。)

(出典：フィッシャー&ユーリー・前掲書、158～160頁。)

[設問 1] 【課題文 1】 のハーバード流交渉術においては、良い交渉と悪い交渉があるとされる。筆者が主張する原則立脚型交渉は、なぜ良いのか、また、その交渉のあり方はどのようなものかについて、300字以上 500字以内で説明しなさい。

[設問 2] ハーバード流交渉術であげられる例の一つに【課題文 2】 の保険調査員との交渉ケースがある。あなたが登場人物のジェリーならば、後日行われる話し合いの際、保険調査員の対応(立場駆け引き型交渉)に対して、どのような方向での交渉をするかについて、300字以上 500字以内で述べなさい(会話形式としないこと)。その際、原則立脚型交渉の4つの基本的要素のいずれかを使いなさい。複数の要素を用いてもよい。

## 問題2

### 【課題文】 A弁護士とB修習生の会話

B修習生：先生「良き法律家は悪しき隣人である」という法諺がありますよね。この法諺の意味は色々言われていますが、先生はどのように考えてますか。

A弁護士：正確かどうか分かりませんが、良き法律家というのは、法をきちんと遵守すべきと考えているから、他人にもこれを守らせようとする傾向がある、つまり、隣人に対しても、杓子定規に法とか規則を守らせようとするから、隣人にとっては付き合いにくい、という意味で使用されているのではないのでしょうか。

B修習生：しかし、先生の言われた意味では、法律家である隣人から、軽微なことであっても、法をきちんと守れといわれたりするとつきあいにくい、ということになりますよね。そうすると、法は守らなくてもいいんじゃないか、ということにつながりませんか。いくら、杓子定規とはいっても法を守ることは当然だと思うのですが。

A弁護士：でも細かいことまで色々言われたら隣人も嫌ではないでしょうか。少し話は変わりますが、10年位前に廃棄物処理法が改正され、廃棄物の焼却禁止の規定が罰則付で創設されたことは知っていますよね。同改正法では、家庭内の廃棄物を私有地で焼却したということでも、処罰の対象になることがあるんですよ。まあ、軽微なたき火程度のものであれば処罰の対象にはならないという例外規定があるんですが、限界が曖昧なところがあるんですよ。そうすると、仮に、ちょっとした廃棄物を私有地で焼却していたとき、隣人から注意されたりするのって嫌じゃないですか。

B修習生：しかし、今の廃棄物処理法の例えですが、先生が最初に話された説明、つまり、法を守れという隣人は杓子定規だから付き合いにくいという意味とは、少し違うのではないのでしょうか。

廃棄物処理法は、家庭内の廃棄物であっても、廃棄物はきちんとした処理施設で処分すべきであり、それを個人が勝手に燃やすと環境にも悪いということで禁止されていると思います。ところが、廃棄物処理法でも、周辺に与える影響が軽微な場合は例外として処罰されないことになってますよね。そうすると、廃棄物処理法はきちんと守るべきであると思いますし、先生が話をされた廃棄物の例は、最初に話された法諺の意味とはちょっと違うような気がします。

A弁護士：そうですかね。私としては同じようなことを言っていると思って説明したんですけどね。

(注) 廃棄物処理法は正確には「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」ですが、課題文は略称で使用している。

**【設問】**

「良き法律家は悪しき隣人である」という意味について、A弁護士としては、自分が最初に話した意味の例え話として、廃棄物処理法の話をしたのですが、B修習生の理解としては、その例え話はA弁護士の話をした意味からは適切ではない、との意見です。

両者の違いはどのような理由から生じているのでしょうか。500字以上700字以内で説明しなさい。

なお、本間は廃棄物処理法の解釈とか、「良き法律家は悪しき隣人である」との法諺の意味について、A弁護士が話をしている内容が正しいかどうかを聞いているものではありません。